

今期（4-6月）は売上高DI、採算DI、業況DI、資金繰りDIが大幅に悪化し景気後退懸念が強まる。先行き（7-9月）は横ばいで「様子見」だが予断許さず。

■全業種DI

	前期 1-3月	今期 4-6月	先行き 7-9月
2-1. 売上高DIの比較(「増加」-「減少」)	-5.3	-18.0	-21.3
2-2. 採算DIの比較(「好転」-「悪化」)	-2.2	-17.2	-16.0
2-3. 仕入単価DIの比較(「下落」-「上昇」)	-44.2	-32.8	-34.8
2-4. 従業員DIの比較(「不足」-「過剰」)	18.4	14.8	19.6
2-5. 業況DIの比較(「好転」-「悪化」)	-8.5	-20.9	-20.5
2-6. 資金繰りDIの比較(「好転」-「悪化」)	-6.3	-14.3	-11.1

企業の景況感は売上高DIは前期-5.3から今期-18.0、採算DIは前期-2.2から今期-17.2、業況DIは前期-8.5から今期-20.9といずれも10ポイント以上の大幅悪化となった。また、資金繰りDIも前期-6.3から今期-14.3と8ポイント悪化した。従業員DIは前期18.4から今期14.8となったが、雇用状況の改善ではなく前述のDI悪化に伴う仕事量の減少も要因と考えられる。仕入単価DIは-44.2から-32.8と10ポイント以上改善したが、それでもマイナス幅は依然として大きく、厳しい状況である。

一方、先行きの見通しでは売上高DIが-21.3、採算DIが-16.0、業況が-20.5、資金繰りが-11.1、仕入単価-34.8、従業員数DIは19.6と今期の悪化のまま横ばいで「様子見」の姿勢がみられる。

前回（1-3月）のリアルタイム調査報告書では先行き（4-6月）は大幅な悪化を見通しており、景気後退への警戒感を高めるべきと指摘したが今回のリアルタイム調査は指摘どおりの結果となった。先行きのDIの見通しは「様子見」だが、現状では好転する材料に乏しく景気後退は長期化の可能性もある。

■令和元年度の設備投資について

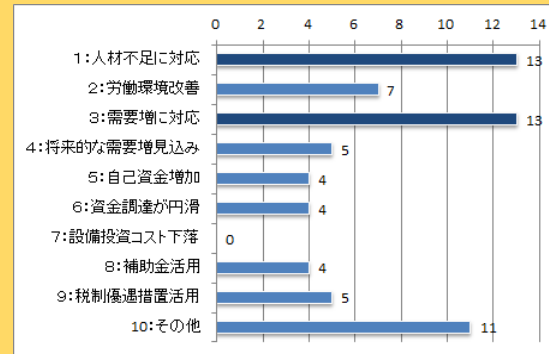
令和元年度の設備投資について聞いたところ1位「実施しない・見送る（予定含む）」：108社（44.3%）、2位「現時点では未定」：82社（33.6%）、3位「平成30年度（2018）と同水準で実施予定（実施済み含む）」：17社（7.0%）、4位「規模を拡大して実施予定（実施済み含む）」16社（6.6%）、5位「規模を縮小して実施予定（実施済み含む）」14社（5.7%）、6位「回答なし」7社（2.9%）となった。

設備投資を行う企業の合計は19.3%であり、全体の8割弱の企業では設備投資の計画がなかった。

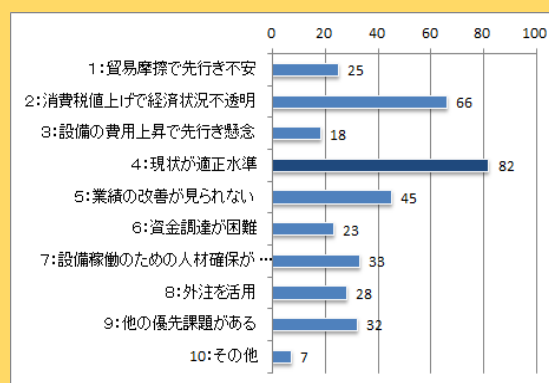
設備投資を行うと回答した企業に設備投資を行う理由を聞いたところ、1位「人手不足に対応するため」：13社、同「現在の需要増に対応するため」：13社が主なものだった。

設備投資計画を行わない企業に設備投資を見送る理由を聞いたところ、1位「現状の設備が適正水準であるため」：82社、2位「2019年10月の消費税引き上げ予定により、今後の経済状況が不透明なため」：66社が主なものだった。

設備投資を行う理由(複数回答可)



設備投資を見送る理由(複数回答可)



■第18回リアルタイム景況調査概要

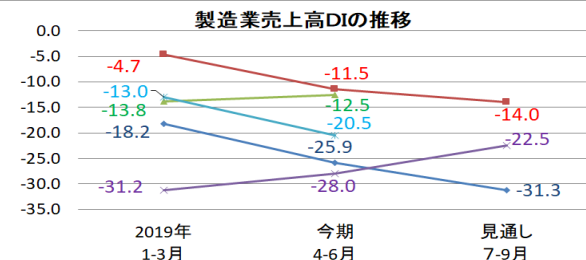
本調査は、市内会員企業（小規模事業者）の景況感や、課題等を広く聴取し、データの集積及び周知、延いては要望事項の取りまとめに供するために、原則四半期に1回実施するものである。

・調査実施期間：2019年7月1日（月）～7月12日（金） ・調査方法：FAXによる送付、FAXによる回答 ・調査対象：会員事業所2,802社（市内小規模事業者） ・回答数：244社

■業種別売上高DI

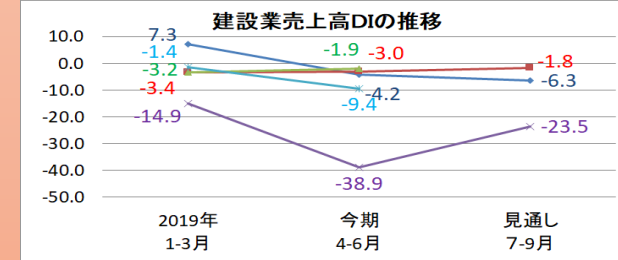
- 川口商工会議所「リアルタイム景況調査」
 - 日本商工会議所「LOBO(早期景気観測)」
 - 中小機構「中小企業景況調査」
 - 埼玉県四半期経営動向調査
 - 全国中小企業団体中央会中小企業月次景況調査
- ※注）先行きは本調査および日本商工会議所LOBO調査、埼玉県四半期経営動向調査

■製造業 今期・先行き共に悪化の見通し



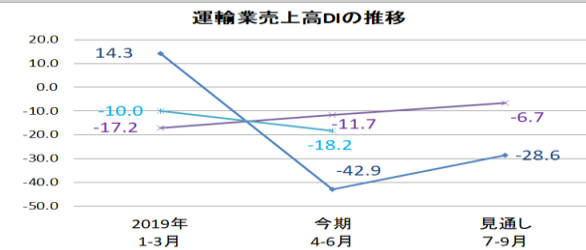
川口市の製造業売上高DIは1-3月の-18.2から4-6月は-25.9と2期連続で悪化した。先行きは-31.3と日本商工会議所の-14.0、埼玉県の-22.5に比べても、更に悪化する見通し。

■建設業 今期悪化しマイナスに転じる



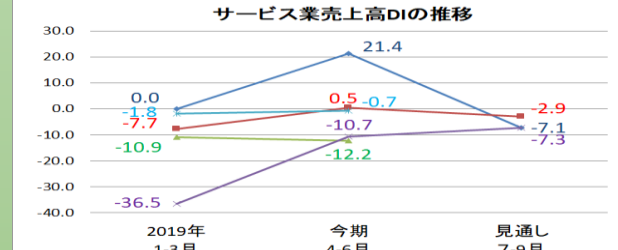
川口市の建設業売上高DIは1-3月の7.3から今期-4.2と2期連続で悪化しマイナスに転じた。先行きは-6.3と更に悪化し日本商工会議所の-1.8を下回るが埼玉県の-23.5よりマイナス幅は小さい。

■運輸業 今期大幅に悪化しマイナスに



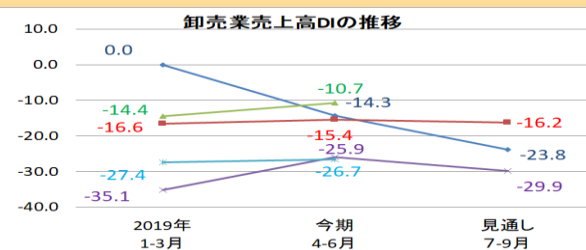
川口市の運輸業売上高DIは1-3月は14.3から4-6月は-42.9と2期連続かつ50ポイント以上の大幅悪化となり、マイナスに転じた。先行きは-28.6と改善するものの、埼玉県の-6.7に比べてマイナス幅は大きく、厳しい状況は続く見通し。

■サービス業 今期改善だが先行きマイナス



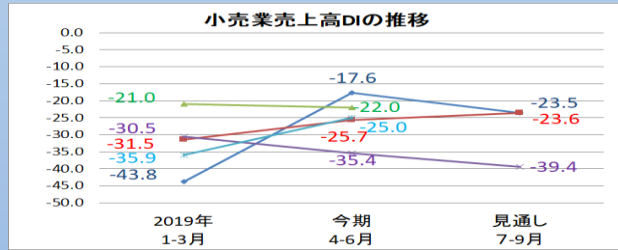
川口市のサービス業売上高DIは1-3月の0.0から4-6月は21.4と大きく改善し、他調査より良好であった。先行きは-7.1と悪化しマイナスに転じ、日本商工会議所の-2.9と順位が入れ替わるが埼玉県の-7.3とほぼ同じの見通し。

■卸売業 川口市だけが悪化傾向が続く



川口市の卸売業売上高DIは1-3月の0.0から4-6月は-14.3と悪化し、マイナスに転じた。先行きは川口市の卸売業は-23.8とさらに悪化し日本商工会議所の-16.2は下回るが、埼玉県の-29.9を上回る見通し。

■小売業 今期改善するが先行きは悪化



川口市の小売業売上高DIは1-3月-43.8から4-6月は-17.6とマイナスだが改善し、他調査より良好だった。しかし先行きは-23.5と再び悪化するものの、日本商工会議所の-23.6とほぼ同じで、埼玉県の-39.4を上回る見通し。